

令和5年度「行政評価」の結果について

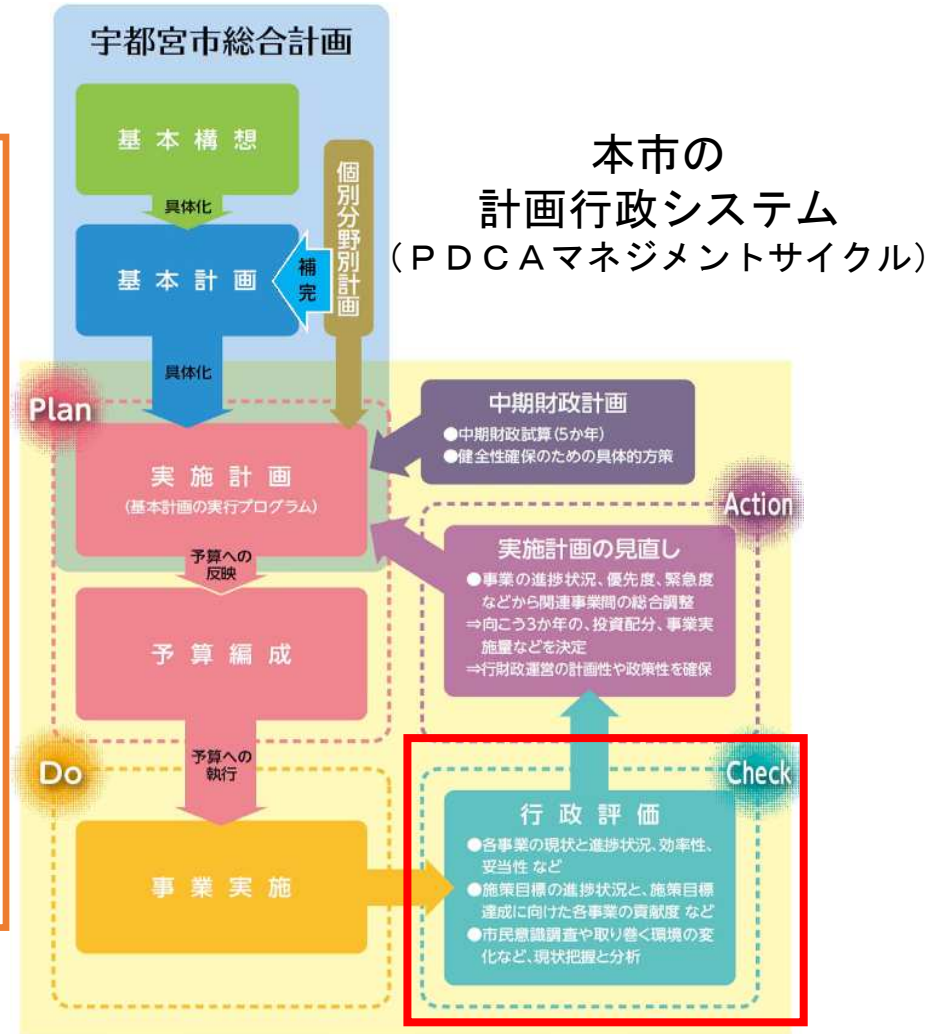
令和5年度「行政評価」を実施し、 市民サービスの更なる向上に取り組んでいます。

本市では、「第6次宇都宮市総合計画」を着実に推進するため、「PDCA（※）」のマネジメントサイクルを実施しており、この度、前期基本計画の最終年度である令和4年度に実施した施策・事業の「行政評価」の結果をとりまとめました。

今回の評価結果については、9割以上の施策が「順調」または、「概ね順調」に進捗しております。

今後とも、「スーパースマートシティ」の実現を目指し、今回の評価結果等を活用し、総合計画後期基本計画（令和5～9年度）を推進し、各施策・事業の効果を高め、目標の達成に向け取り組んでいきます。

※ Plan(各種計画等の策定)－Do(事業の実施)－
Check(行政評価)－Action(事業の見直し等)

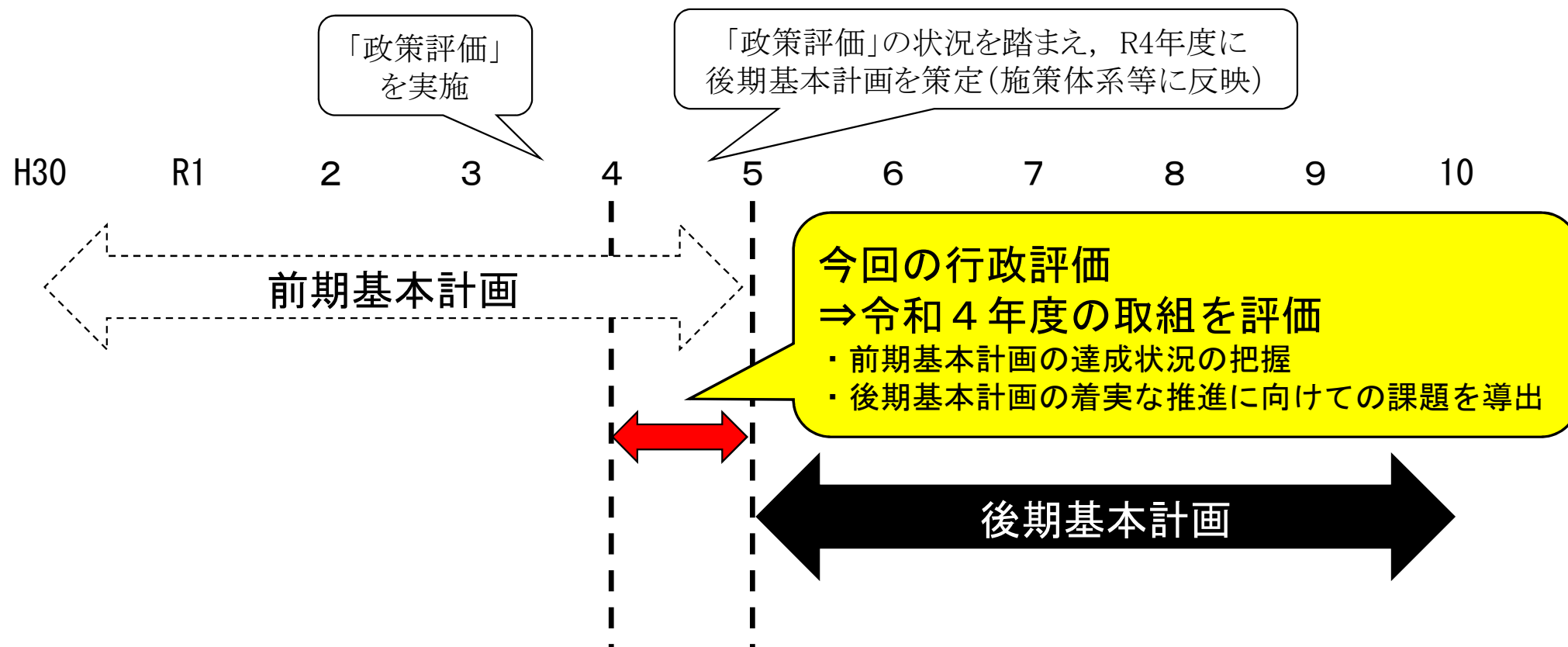


1 本市の行政評価の概要

「第6次宇都宮市総合計画前期基本計画」（以下、「基本計画」という。）で掲げた長期的な目標の達成度を包括的・体系的に評価するため、行政評価は、「政策評価」「施策評価」「事業評価」の3階層で構成する。

評価の種類	概要
政策評価 (5年に1度実施)	基本計画の政策体系に基づき、計画に掲げた政策（基本施策）の目標の達成度や施策の進捗状況などに基づき、評価を実施し、今後の政策の方向性を検討するもの（令和3年度に実施済）
施策評価 (毎年実施)	基本施策に連なる各施策について、施策の進捗状況や市民満足度の推移などを踏まえて、施策の課題抽出や今後の方向性を検討するもの
事業評価 (毎年実施)	各事業について、施策目標を達成するために何が有効であるかという視点から、今後の取組方針を検討するもの

2 「総合計画」の計画期間と「行政評価」について



令和5年度「行政評価」の結果について

3 「施策評価」の評価方法

- 各施策について、下記①～④の4つの評価指標に基づいて多角的・総合的な評価を実施
- 評価は、点数化による定量的な評価によって客観性を確保
- 「基本計画」の体系に基づき、「令和4年度」に実施した事業を対象として、評価を実施

《評価指標の概要》

評価指標	概要
①産出指標の達成度	「基本計画」に掲げる施策指標の達成度を評価
②成果指標の達成度	
③市民満足度の推移	市民意識調査結果において、各施策の満足度について「満足」又は「やや満足」と回答があった割合（市民満足度）の推移を評価
④主要な構成事業の進捗状況	「基本計画」の「まちづくり好循環プロジェクト」や主要事業から、主要な構成事業として選択した事業の進捗状況を評価

※ 新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という。）を踏まえた評価

令和4年度においても、感染症の状況を踏まえて、事業の中止や規模縮小などの影響があることから、それらの影響を受けた施策指標（産出指標、成果指標）については、定量的に評価せず、その他の指標（市民満足度、主要な構成事業の達成状況）をもとに、総合評価を行った。

4 「施策評価」結果の総括（詳細は 別紙1 ）

ア 進捗状況

評価区分	R 5 施策数(割合)	R 4 施策数(割合)
順調	17 (20.0%)	11 (12.9%)
概ね順調	64 (75.3%)	69 (81.2%)
やや遅れ	4 (4.7%)	5 (5.9%)
計	85 (100.0%)	85 (100.0%)

【結果の概況】

- ・「順調」，「概ね順調」と評価された施策が9割以上を占めている。
(81/85施策, 95.3%)
- ・「やや遅れ」となった施策については，「安心して妊娠・出産できる環境の充実」，「子育て支援の充実」，「幼児教育の推進」，「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」の4施策であった
(4/85施策, 4.7%)

○ 総合評価が「順調」となった施策（17施策）

- ・ Iの柱（子育て・教育・学習分野）
「教育環境の充実」，「高校，高等教育の充実・支援」，「自己を磨き社会を支える学習の推進」
- ・ IIの柱（健康・福祉・医療分野）
「地域医療体制の充実」，「地域包括ケアシステムの構築・推進」
- ・ IIIの柱（安心・協働・共生分野）
「危機に対する体制・都市基盤の強化」，「食品の安全性の向上」
- ・ IVの柱（魅力・交流・文化分野）
「都市ブランド戦略の推進」，「移住・定住の促進」
- ・ Vの柱（産業・環境分野）
「流通機能の充実」，「農林業を支える担い手の確保・育成」
- ・ VIの柱（都市空間・交通分野）
「地域特性に応じた土地利用の推進」，「地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成」，
「安定した上下水道事業の推進」
- ・ 行政経営基盤（行政経営分野）
「地区行政の推進」，「財政基盤の確立」，「情報化の推進」

○ 総合評価が「やや遅れ」となった施策（4施策）

- ・ Iの柱（子育て・教育・学習分野）
「安心して妊娠・出産できる環境の充実」，「子育て支援の充実」，
「幼児教育の推進」，「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」

令和5年度「行政評価」の結果について

イ 各評価指標の結果

区分	産出指標		成果指標		市民満足度		主要な構成事業	
	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4
A評価	30 (35.3%)	29 (49.1%)	25 (29.4%)	26 (35.6%)	20 (23.5%)	3 (3.5%)	0 (0%)	0 (0%)
B評価	32 (37.6%)	29 (49.1%)	47 (55.3%)	41 (56.2%)	53 (62.4%)	68 (80.0%)	85 (100%)	85 (100%)
C評価	5 (5.9%)	1 (1.8%)	5 (5.9%)	6 (8.2%)	12 (14.1%)	14 (16.5%)	0 (0%)	0 (0%)
計	67 (100%)	59 (100%)	77 (100%)	73 (100%)	85 (100%)	85 (100%)	85 (100%)	85 (100%)
感染症による 評価不適	18	26	8	12				

【結果の概況】

- 「産出指標」と「成果指標」ともに、感染症による評価不適となった事業が、令和4年度と比べて減少しており、A評価とB評価が増加していることに加え、「市民満足度」がA評価となった施策が、令和4年度の評価と比べて3件から20件へ増加した。

【進捗状況が「やや遅れ」となった4施策の要因と「今後の取組の方向性」】

施策名	◆「やや遅れ」となっている要因 ⇒：今後の取組の方向性
<p>安心して妊娠・ 出産できる環境 の充実</p>	<p>成果指標：「精神的にイライラしたり，育児に負担を感じる人の割合」</p> <p>◆ 核家族化や地域とのつながりの希薄化，ライフスタイルの多様化等により，子育てに関する支援を受けにくくなっていることに加え，長期化する感染症の影響（出産に係る付添いの制限等）による周囲からの孤立など，関係性の希薄化が顕在化し，子育て家庭の不安等が継続しているものと考えられる。 （※H28基準値10.5%⇒R4目標値0%，R4実績値10.2%）</p> <p>市民満足度</p> <p>◆ 妊娠・出産する前の段階からの支援の充実が求められている可能性がある。 （※満足度の「わからない」の回答割合（46.5%）が高い点にも留意が必要）</p> <p>⇒ きめ細かな相談・支援の継続による，精神的負担の軽減</p>
<p>子育て支援の 充実</p>	<p>成果指標：「子育てに不安や悩みを持つ人の割合」</p> <p>◆ 共働き世帯の増加などによる保育ニーズの高まりはもとより，就業形態の多様化などによる様々な保育サービスが求められていることや，長期化する感染症の影響（親子交流の場の利用一部制限）により，子育てに関する不安や悩みが，解消には至らないものと考えられる。 （※H28基準値54.6%⇒R4目標値30%，R4績値51.6%）</p> <p>⇒ 子育てに関する相談体制の充実，子育て支援施策・事業の認知度向上</p>

令和5年度「行政評価」の結果について

施策名	◆：「やや遅れ」となった要因 ⇒：今後の取組の方向性
<p>幼児教育の推進</p>	<p>市民満足度 ◆ 感染症の影響により，教育・保育施設での各種活動（小学生と，近隣の幼稚園・保育園に通う子どもとの交流活動等）の自粛などにより，満足度が低下した可能性がある。 （※満足度の「わからない」の回答割合（57.6%）が高い点にも留意が必要） ⇒ 感染症対策を講じた各種活動の実施や，必要なサービスを利用したいときに利用できる環境の整備</p>
<p>学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実</p>	<p>市民満足度 ◆ 感染症対策に柔軟に対応しながら，地域における教育活動を実施したが，規模の縮小や一時休止などにより，満足度が低下した可能性がある。 （※満足度の「わからない」の回答割合（51.5%）が高い点にも留意が必要） ⇒ 学校・家庭・地域が連携した教育活動の活動機会の確保，更なる情報発信</p>

⇒「やや遅れ」となった「子ども・教育」関連施策については，「後期基本計画」において，新設・拡充した戦略事業「女性が輝ける環境づくりの推進」，「若年層を中心とした移住・定住の更なる促進」など，あらゆる機会を通して，効果的に取組を推進し，PRしていく。

5 「事業評価」結果の総括

ア 進捗状況

評価区分	R5 事業数 (割合)	R4 事業数 (割合)
計画以上	4 (0. 5%)	5 (0. 6%)
計画どおり	763 (90. 4%)	700 (81. 6%)
計画より遅れ	4 (0. 5%)	3 (0. 4%)
感染症の影響による変更有	73 (8. 6%)	150 (17. 4%)
計	844※ (100. 0%)	858 (100. 0%)

※ R4とR5の事業数の違いは、事業の統廃合等によるもの

【結果の概況】

- ・ 感染症による影響は、令和4年度は150事業（全事業の約2割）で予定していた事業の中止縮小などの変更が生じていたが、今年度においては、73事業（全事業の約1割以下）となり、「計画どおり」となった事業が増加した。
- ・ イベントや各種講座などにおいては、人数制限を行い実施回数を増加、WEBによる配信など、感染症対策を講じながら市民サービスの維持向上に取り組んだ。

令和5年度「行政評価」の結果について

6 「前期基本計画」（平成30年度～令和4年度）の「行政評価」の総括

- 全85施策については、5年間を通じて、全体的な傾向としては、総合評価が「順調」・「概ね順調」の施策が9割以上を占め、取組が着実に推進された一方で、総合評価が下がった「子育て・教育分野」や「福祉分野」、「産業分野（就労・雇用等）」の施策もあり、これらの施策では感染症などにより、社会生活の変化による子育て家庭などの孤独・孤立の顕在化・深刻化、非正規雇用を中心とした不安定な就業など市民の不安感が高まっているなど、市民生活や事業活動への影響が大きい分野であることが考えられる。
- 感染症が流行する中、それらが市民生活等に大きく影響する場合、どのように市民意識を捉えていくべきかが課題となっている。
- 事業評価については、5年間を通じて、全体の概ね9割（1年度あたり平均750事業程度）が「計画以上」・「計画どおり」となっていると同時に、「計画より遅れ」となった事業は1%未満（5事業以下）である。
- また、効果的・効率的な事業となるよう、事業の「拡大」による市民サービスの向上やサービス手法の変更等の「改善」など、見直しを行った事業は、毎年度約1割（100事業程度）あった。

7 今後の取組

(1) 評価結果等の活用

- ・ 評価の結果については、評価結果から得られた、各施策の進捗状況や課題を「総合計画実施計画」の策定や予算編成等に活用し、「後期基本計画」を着実に推進していく。
- ・ 「後期基本計画」の推進にあたっては、今回の評価結果を踏まえ、目標の達成に向け、分野横断的な視点に立ち、各施策・事業の効果を高め、本市が目指すまちの姿である「スーパースマートシティ」の実現に取り組んでいく。

(2) 「行政評価」の実施手法の見直しについて

「後期基本計画」における施策体系に即したものとするとともに、施策を取り巻く背景、社会潮流や国・県の動向、課題や市民ニーズ等を踏まえた対応方針を効果的に導出できるよう、ICT等の活用をはじめ、「市民意識調査」（市民満足度）の分析方法の見直しなど、より有効な評価方法を構築する。